雲南市初代市長
速水市政スタート
まちは人を育て、人はまちを育てる

就任　新年のごあいさつ

速水　雄一

市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこと、謹んでお慶び申し上げます。

雲南市として迎えました平成17年は、新市建設計画のまちづくりの基本理念「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」の実現に向けた礎の年であり、市民の皆様とともに手を携え、粉骨砕身努めてまいる所存でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、我が国の経済情勢は、緩やかな回復の兆しが見られるものの依然低迷し、その脱却は緊急の課題となっており、国においては国庫補助金の削減や地方への税源移譲など、いわゆる「三位一体改革」が進められているところであります。

しかし、現段階では本格的な税源移譲の具体的内容は先送りとされ、地方交付税の一方的削減のみが強調されるなど、地方にとっては不安が募る改革内容となっています。

一方、島根県では、中期財政改革基本方針において、概ね10年後における収支均衡体質への転換をめざしており、様々な施策の見直しが雲南市に与える影響は多大なものがあると予想されます。

こうした厳しい状況下ではありますが、雲南市の果たすべき役割を着実に実行していくと同時に、地方の権限と責任、それに見合う税財源の移譲を県、市長会等を通して国に対し強く要求していく所存であります。

とりわけ雲南市におきましては、住民が主役であるまちづくりと合理的な行財政運営を一層進めるため、3つの基本方針と4つの実践に基づき取り組んで参りたいと存じます。

基本方針の1つ目は

「行政情報の公開」を行っていくことです。

市民と行政が情報を共有することにより、行政に対する興味を抱いていただき市政への参加を促していきます。そして、課題への取り組みや問題解決のためにともに知恵を出し合う姿が雲南市の進むべく姿であり、市民の皆様に信頼される行政運営につながるものと確信しております。

2つ目の方針は

「財政の健全化」です。

財政の先行きが不透明な中、新市建設計画に示してある財政計画に基づき、実施計画の策定を進めます。「あれも、これも」から、地域的バランスも考慮したうえで「あれか、これか」に内容をより精査した上で、取捨選択しながらすすめていかなければならないと思います。さらに、雲南市全域の一体的な発展を考えなければなりませんので、選択にあたっては市民や議会の皆様に十分な理解をいただきながら進めていかなければと考えております。

3つ目の方針は

「雲南市民の総力の結集による地域の一体化と職員の融和」であります。

地方分権の確立は、地域の自主性、自立性の尊重と自己決定権の拡充を求めることであり、その上に立ったまちづくりは市民の総力戦であるといえます。先人が守り育てた地域の伝統や文化を大切にし、各町の特性を活かしながら連携しあい相乗効果の力を発揮することが必要であります。そして、全ての政策が、より効果が発揮できるよう市民懇談会等を積極的に開催し、市民の皆様の視点に立ち、意見交換を集約した上で、政策展開を図っていきたいと考えます。

さらに、市職員におきましては、4つの実践に取り組んでいきます。具体的には、①それぞれの立場で市民の皆様との接触を図り、市民と行政の信頼の絆を結ぶよう務める。②職務の遂行にあたっては、とにかく失敗を恐れず迅速、決断、実行、報告を徹底する。③事務処理は迅速、正確、親切、丁寧を目指す。④判断を誤らないよう職務遂行のための積極的な情報収集を行うの4点です。特に接遇につきましては、雲南市役所が接遇日本一の自治体となるよう全力を傾注したいと存じます

まちは人を育て、人はまちを育てます。住民と行政の協働による、迅速化と効率的な行政運営が進められなければなりません。

終わりになりましたが「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」は、今を生きる私達、雲南市民一人ひとりがともに知恵を出し合い、汗をかき、夢を具体化していくことに他なりません。

市民の皆様の新たなまちづくりへの一層のご理解、ご協力を心からお願い申し上げ、皆様のご多幸を祈念いたしまして就任および年頭のごあいさつといたします。

12月1日速水市長初登庁時、記者会見の様子